

報道配布資料

平成 25 年(2013 年)12 月 2 日

所属名	所属長名	部局長名	担当者職・氏名	連絡先
山口県立大学	学 長 えさと けんすけ 江里 健輔	教育研究推進室長 ながさか ゆうじ 長坂 祐二	国際文化学部 准教授 さいとう ただし 斉藤 理	083-928-2527
発表内容の 関係地域	[<u>全県</u>]、岩国、柳井、周南、[<u>山口</u>]、防府、宇部、山陽小野田、下関、長門、 萩、首都圏			

1 件名

「グローバル時代における地域の未来を考える公開セミナー」のご案内と参加者募集

2 趣旨

近年「グローバル化」という言葉を耳にすることが増え、地域社会においても産業の空洞化が進むなど、私たちの生活にとっても少なからぬ影響を与えています。

この度、海外の研究者を講師にお迎えし、以下の2つの切り口から「グローバル時代における地域のこれから」について考える連続セミナーを企画しました。山口県をはじめ、日本の地域においてグローバル化が進む時代にあって、今回のセミナーは今後の地域コミュニティのよりよい形成に資する機会にならうかと考えています。

3 各セミナーの内容

第1回 12月10日(火) 講師：ロレンツ・ポツゲンドルフ氏(造園家)

「里山から学ぶこと Learning from Satoyama

～文化的景観を守り、持続可能な地域振興につなげる方法～

地域の暮らし、文化、コミュニティ、生態系、こうした要素を全て含んだ「地域の特性」をどのように理解し、維持していくことができるか。この問題を考える際に大きなヒントとなるのが日本に伝わる「里山」という考え方といわれています。すでに、里山の考え方は「SATOYAMA」として広く世界に広がり、外国の研究者からも注目されています。

今回、この分野で活躍する先生を講師にお招きし、**伝統に倣いながら、現代に合う地域の創り方**について考えていきます。

第2回 12月12日(木) 講師：アルトゥール・ヤン・コスチアンスキ氏

(ポーランド科学アカデミー准教授)

「ヨーロッパにおける市民社会の形成について～ポーランドを事例として～」

グローバル化によって生まれる国境を越えた諸問題に対処する上で大きな力となっているのが、NGOやNPOといった**市民発のネットワーク**です。その活動への期待はこれからも益々強まっていくものと考えられます。一方、先進国で進む超高齢化は、地域コミュニティをいかに維持・運営していけるかという課題を私たちに突きつけています。こうした面でも、人々の自発的な活動を軸とする市民社会の形成が益々必要とされてきています。

地域間や人々との連携を促しつつ、新しい市民社会をどのように創造し得るのか。今回、ポーランドの著名なアカデミーで研究にあたっておられる先生をお招きし、これからの市民社会のあり方について共に考えてみたいと思います。

4 日 時

第1回：2013年12月10日（火）17:50-19:20 ※WEB中継によるレクチャーとなります。

第2回：2013年12月12日（木）16:10-17:40

（いずれも英日・逐次通訳あり 60分間レクチャー&30分間質疑応答）

5 場 所

いずれも、山口県立大学（山口市桜島3-2-1）D24教室（Y-ACT室）

6 講師紹介

第1回：ロレンツ・ポッケンドルフ氏（造園家）

1970年生まれ、博士（農学）。1999年、ハノーファー大学景観・自然保全学部を卒業後、2000年からベルリン工科大学大学院生物科学エコロジー研究室にて研究。その後、ドイツ学術交流会奨学生として日本に留学し、2008年、東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻を修了した。日本では「鎮守の杜」の調査研究に取り組んだ。

その他、シュレスヴィッヒ=ホルスタイン州農業会議所植物学講師を務めるなど、多くの社会貢献活動にも取り組んでいる。台湾や日本の造園会社での研修経験も豊富で、日欧の自然環境に関する実践的比較研究に詳しい。

第2回：アルトゥール・ヤン・コスチアンスキ氏（ポーランド科学アカデミー）

1973年生まれ、1997年、ワルシャワ大学にて修士号、2005年、ポーランド科学アカデミーにて博士号をそれぞれ取得した。現在、ポーランド科学アカデミー哲学・社会学研究科准教授。

NGO活動、コミュニティ資源のマネジメント、ライフスタイル、社会調査法などを研究キーワードとしている。

7 申込みと問合せ先

・事前申込み：各回定員30名（参加無料、先着順）

・申込みと問合せ先

山口県立大学グローバル人材育成推進オフィス

電話 083-928-5410（平日9時～17時）

8 会場への案内図



2013

世界の眼から見た「日本文化」を考える

Dec.



講師略歴 ロレンツ・ポッゲンドルフ（造園家）

1970年生まれ。

1999年、ハノーファー大学 景観・自然保全学部 卒業 / 2000年、ベルリン工科大学大学院生物科学エコロジー研究室にて研究。その後、ドイツ学術交流会奨学生として日本に留学し、2008年、東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻修了。博士（農学）。日本では「鎮守の杜」の調査研究に取り組んだ。

その他、シュレスヴィヒ＝ホルスタイン州農業会議所植物学講師を務めるなど、多くの社会貢献活動にも取り組んでいる。台湾や日本の造園会社での研修経験も豊富で、日欧の自然環境に関する実践的比較研究に詳しい。

近年、欧州では「**文化的景観**」という言葉を目にすることが増えてきました。

地域の暮らし、文化、コミュニティ、生態系、こうした要素を全て含んだ「**地域の特性**」をどのように理解し、維持していくことができるか。この問題を考える際に大きなヒントとなるのが日本に古く伝わる「**里山**」という考え方です。

2010年からは国連大学が中心となって「**SATOYAMAイニシアティブ**」という事業も動き始めています。

今回、この分野で活躍する先生を講師に

お招きし、**伝統に倣いながら、**

現代に合う地域の創り方について

考えていきます。

セミナー

里山から学ぶこと Learning from Satoyama ～文化的景観を守り、持続可能な地域振興につなげる方法～

講師 ロレンツ・ポッゲンドルフ先生（造園家）

日時

2013年 **12月10日（火）**

17:50-19:20（英日逐次通訳あり）
（WEB中継によるレクチャーです）

会場

山口県立大学（山口市桜島3-2-1）D24教室（Y-ACT室）

定員30名（参加無料・申込先着順）：申込＆お問い合わせ電話 **083-928-5410**（平日9時～17時）

山口県立大学グローバル人材育成推進プロジェクトチーム

What is
Global?

Here. Around Me!



グローバル人材育成推進事業

2013

グローバル時代における 新しい市民社会の創造とは

Dec.



ポーランド科学アカデミー



講師:アルトゥール・ヤン・コスチアンスキ先生
(Artur Jan Koscianski)

1973年生まれ / 1997年、ワルシャワ大学にて修士号取得
2005年、ポーランド科学アカデミーにて博士号取得
現在、ポーランド科学アカデミー哲学・社会学研究科准教授
NGO活動、コミュニティ資源のマネジメント、ライフスタイル、社会調査法などを研究キーワードとしている。

セミナー

「ヨーロッパにおける 市民社会の形成について ～ポーランドを事例として～」

グローバル化が進むことに伴い、私たちの周りでも日々様々な社会問題が報じられています。環境問題、世界市場主義の弊害、経済格差の拡大、民族間対立など、こうしたニュースを目にすることも多いと思います。

そうした諸問題に対処する上で大きな力となっているのが、NGOやNPOといった**市民発のネットワーク**です。彼らは国益を超えた視点から「政府や市場の失敗」の是正に取り組んでおり、その活動への期待はこれからも益々強まっていくものと考えられます。

一方、先進国で進む超高齢化は、**地域コミュニティ**をいかに維持・運営していけるかという課題を私たちに突きつけています。こうした面でも、人々の自発的な活動を軸とする市民社会の形成が益々必要とされてきています。

地域間や人々間の連携を促しつつ、新しい市民社会をどのように創造し得るのか。

今回、ポーランドの著名なアカデミーで研究にあたっておられるコスチアンスキ先生をお招きし、冷戦下、それに続く急速な民主化のなかで築かれていったポーランドにおける事例を基に、これからの市民社会のあり方について共に考えてみたいと思います。(東京以外では、山口だけの講演となります)

講師 アルトゥール・ヤン・コスチアンスキ先生

(ポーランド科学アカデミー)

日時

2013年 **12月12日(木)** 16:10-17:40 (英日逐次通訳あり)

会場

山口県立大学(山口市桜島3-2-1) D24教室(Y-ACT室)

定員30名(参加無料・申込先着順): 申込 & お問い合わせ電話 **083-928-5410** (平日9時~17時)

山口県立大学グローバル人材育成推進プロジェクトチーム

What is
Global?

Here. Around Me!



グローバル人材育成推進事業

Y-ACT.
山口県立大学 アクティブラーニングスタジオ

公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University